

大東文化大学『大東書道研究 2006』

2007 年 3 月 30 日<抜刷>

アメリカの四美術館の書跡

河 内 利 治 (君 平)

アメリカの四美術館の書跡調査

An Investigation of Handwriting Pieces at Four Museums in the U.S

河内 利治 (君 平)

Toshiharu (kunpei) Kawachi

はじめに

筆者は、大東文化大学平成 18 年度長期海外研究員制度に採択され、「西洋の視座から見る〈書〉の基礎的調査: Research on Basic Viewpoint of Calligraphy in the West」を研究課題として、アメリカ合衆国東部マサチューセッツ州ボストン市にある、ボストン大学人文学部美術史学科客員研究員 (BOSTON UNIVERSITY College of Arts and Sciences Department of Art History VISITING RESEARCH SCHOLAR) の身分で、2006 (平成 18) 年 4 月 1 日から 2007 (平成 19) 年 3 月 31 日までの一年間、アメリカ国内を中心に在外研究を行っている¹。

本稿は、その研究成果の一部である。全体的な報告は、帰国後にまとめるつもりである。そのため本稿では、アメリカの四美術館: フリーア・ギャラリー、メトロポリタン美術館、プリンストン大学美術館、ボストン美術館における実態調査に限って報告したい。四美術館の正式名称は次の通りである。

Freer Gallery of Art and Arthur M. Sackler Gallery, Washington DC

フリーア・ギャラリー & アーサー M. サックラー・ギャラリー、ワシントン DC

Princeton University Museum (New Jersey, Princeton)

プリンストン大学美術館、ニュージャージー州プリンストン

The Metropolitan Museum of Art, New York

メトロポリタン美術館、ニューヨーク

Museum of Fine Art, Boston (Massachusetts, Boston)

ボストン美術館、マサチューセッツ州ボストン

書跡調査をするにあたり、中田勇次郎・傅申編『歐米收藏中国法書名蹟集』全四巻、昭和 56 年 (1981)、中央公論社発行を基本文献として参照した。この『欧米收藏中国法書名蹟集』(以下『欧米』と略す)は、1980 年以前の欧米における中国書法の名品の、図版写真 (一部カラー) と解説、および中田・傅申両氏の論考からなる。『欧米』出版から 25 年以上経った現在、果たしてこれらの名品が、そのまま各美術館に収蔵されているのか、また保存状態は

どうであるかなどが、今回の主たる調査目的である。また『歐米』明清篇二巻が昭和 58 年 (1983) に同社から刊行されており、これも随時参照した。結論から言えば、『歐米』に収載される書跡は、現在も各美術館に収蔵されており、基本的に保存状態は良好であった。

以下、『歐米』に収載される書跡の、美術館別に作成した表 (巻、page、書作家、法書名) を掲げ、実見した折の備忘録を付記する。

1、フリーア・ギャラリー & アーサー M. サックラー・ギャラリー

巻	Page	書作家	法書名
1	8-14	王献之	保母誌并題跋
1	28-35	褚遂良	文皇哀冊 (明巖激模本) 并題跋
1	80-83	李彭	題李公麟画陶淵明帰隠図巻
1	88	伝蘇軾	伝李公麟画醉僧図巻題跋
1	挿図 13	伝李公麟	醉僧図巻
2	口絵Ⅲ	王庭筠	李山画風雪杉松図巻題跋
2	116-117	西巖了恵	伝胡直夫画釈迦出山図賛
2	118-119	簡翁居敬	宋人画蜆子捕蝦図賛
2	123-125	王庭筠・王万慶等	李山画風雪杉松図巻題跋 口絵Ⅲ
3	6-10	龔開	中山出遊図巻自題并元人等題跋
3	14-17	趙孟頫	常清静経并題跋
3	33-34	趙孟頫	二羊図巻自題
4	口絵Ⅰ	呉鎮	漁父図巻自題
4	口絵Ⅱ	楊維禎	鄒復雷画春消息巻并題跋
4	6-11	楊維禎	鄒復雷画春消息巻并題跋 口絵Ⅱ
4	25-29	呉鎮	漁父図巻自題 口絵Ⅰ
4	42-43	中峯明本	梵隆十六応真図巻并題跋
4	挿図 15	鄒復雷	画春消息巻
4	挿図 28	梵隆	十六応真図巻并題跋

フリーア・ギャラリーでは、5月5日と9月21日の2回、書跡調査を行ったので、分けて記したい。

【5月5日（金）書跡調査】10:00～17:00

王純傑氏（粹人、John S.C. Wang、Instructor of East Asian Calligraphy, George Washington University）と一緒に、10時にフリーア・ギャラリーの張子寧氏（Joseph Chang, Associate Curator of Chinese Art）をofficeに尋ね、Weina Tray（Assistant of Curators）と逢う。彼女は沙孟海先生の娘さんと仲が良かったそう。杭州人で1985年に渡米とのこと。張氏から、八大山人の展覧会図録“*In Pursuit of Heavenly Harmony*”を頂戴する。

先にFAXで送ったリストの書跡（上記の表を整理したもの）を見せてもらうため、王氏とともに、収蔵庫に直接入れてもらう。彼はフリーア・ギャラリーのVolunteerでもある。

アメリカの美術館では、Curatorは研究者であり、所蔵品の管理者は別の担当者が行うシステムになっている。残念ながらフリーア・ギャラリー内で展覧中のため、6ヵ月以後でないと見られない書跡が数件あった。その代わりに徐渭の書画を3件、リストとは別に見せてもらった。張氏の配慮である。結果として、あわせて12件を見せて頂いた。

1) 保母誌并題跋

31.0×29.0cm、紙本、王献之書、趙孟頫跋、郭天錫跋、陳從龍跋、董其昌跋、徐守和跋。

この書跡は、『歐米』第一巻に収録されているが、図版でしか見たことが無かった。是非とも実見したいと思っていた書跡である。王献之の書は、塼に刻されたもののようで、本書跡はその拓本である。趙、郭、陳、董、徐の跋文があり、現在は卷子本になっている。本紙は、ほぼ方形。登録番号F1980.7。1980年にフリーア・ギャラリー所蔵となったものである。それ以前の来歴については不明。墨色は全体に非常に淡く、ボツボツしたところがある。王羲之《定武本蘭亭》に似ているとの傅申氏の指摘があるが、比較検討する余地があると思う。《蘭亭》と同じ字が24字：之、年、在、文、能、老、興、趣、歳、丑、日、終、以、曲、水、於、悲、夫、後、者、あるからである。跋文では、右側の趙孟頫と左側の董其昌の対比が巧妙で、それだけでも一見の価値ありと感じた。

釋文『郎耶王獻之保母。姓李。名意如。廣漢人也。在母家。志向高秀。歸王氏。柔順恭慤。善屬文。能草書。解釋老旨趣。年七十。興寧三年。歲在乙丑二月六日。無疾而終。己卯既望葬。柩出□□□□岡下。殉以曲水小硯。交螭方壺。樹雙栢於墓上。立貞石而志之。悲夫。後八百歲餘。知獻之保母宮于茲土者。尚〔可考〕焉。』（徐守和の釋文）

2) 文皇哀冊并題跋

22.8×22.1cm、紙本、褚遂良（明嚴澂模本）、無紀年。

墨色が濃く、一見すると書いたようにしか見えない。双鉤廓填本の、それも明代であるかどうかは、なかなか見分けられない。「壺」字にややその痕跡が見られる。表具のせいか墨色が一様に滲み出ている一葉があり、それも見分ける上での証拠となる。

3) 題李公麟画陶淵明歸隱図卷

37.0×518.5cm、絹本、李彭、大觀四年（1110）。

翁方綱《淵明歸隱圖》の題字あり。「宋李龍眠淵明歸隱圖真蹟 神品」の標題4件が、楷書・隸書・隸書・隸書で書かれてある。同一人の手か、それも翁方綱かは不明。本図は書画ともに剥落が多い。

4) 伝李公麟画醉僧図卷題跋

31.7×91.0cm、紙本（画）、伝蘇軾、および字今文の書あり、無紀年。

前四行の草書のうち、前2行は特に懷素《自序帖》に似ている。全文は同一人の手になると思うが、前2行とそれ以降とに差がある。蘇東坡ではなかろう。落款の「字今文」は疑問。「山子今文」とも読める。また項元汴の印が印泥の色、押し方に疑問有り。保存良好。

5) 伝胡直夫画釈迦出山図賛

31.7×91.0cm、西巖了恵、無紀年。

紙本の保存は良好だが、茶色を帯び少々カビが生えている。「夜半見明星山中……」六行、落款は太白西巖、了恵（草書一部剥落）。

朱文印〔西巖〕2.7×2.7cm、朱文印〔了恵〕1.0×1.0cm。

6) 宋人画蜆子捕蝦図賛

27.9×74.6cm、紙本（画）、簡翁居敬、無紀年。

「業識茫茫。繞溪岸走。祖意西來。何曾知有。驀然道箇酒臺盤。也是蝦飛不出斗。慈雲居敬賛。」朱文印〔簡翁〕3.2×3.2cm。

賛は左から右へ書かれている。横線の入った感じの紙で羅門箋か。少々剥落あり。

7) 李山画風雪杉松図卷題跋

（画）29.7×79.2cm、全幅31.2×1003.2cm、紙本、王庭筠・王万慶等跋、無紀年。

展覧中のため題跋を見られず。王万慶書は金・皇海迷失二年（1243）。

8) 中山出遊図巻自題并元人等題跋

(画) 32.8×169.5cm、紙本、龔開。

所々に篆書の字形が登場し、面白いと言うか、味があるというか、非常に独特な隸書である。違和感なく篆書が入っている。他の数家の元人には、著名人がいないが、元朝書道史を補うことのできる一件である。

9) 常清静経并題跋

(画) 23.2×92.7cm、絹本、趙孟頫（落款「水精宮道人」）、無紀年。

小楷が素晴らしい。康里のダイナミックな字との対比がある。小字から大字への展開は、思わず大字の方へ先に目が行ってしまうが、もどって趙孟頫の字を見ると吸い込まれそうな繊細さがあり、素晴らしい。

10) 二羊図巻自題

25.2×48.4cm、紙本、趙孟頫、無紀年。

展覧中のため題跋を見られず。

11) 鄒復雷画春消息巻并題跋

(画) 34.1×223.4cm、紙本、楊維禎・郭葆昌跋

展覧中のため題跋を見られず。

12) 漁父図巻自題

(画) 32.5×62.2cm、紙本、呉鎮、至正十二年（1352）。

展覧中のため題跋を見られず。

13) 梵隆画十六応真図巻并題跋

(画) 30.5×1062.5cm、紙本、中峯明本、鉄船居士・元叟行端・董其昌・陸時化跋、無紀年。

中峯明本の書は右に傾いたり左に傾いたり、横画も一定の角度ではなく、非常に自由な筆運びである。応真は羅漢のこと。保存状態は良いが虫食い有り。董其昌の印は二つとも押し方が良くないせいか不明瞭。陸時化（潤之）の朱文印〔陸潤之印〕が画の最後にある。

14) 徐渭書觀潮詩

131.1×31.6cm、紙本、無紀年。

『徐文長三集』卷七「八月十八日阿枳三江觀潮、夜歸示四首俗謂八月十八日潮生日。二首首句指三江之禹廟。」第四首を書いたもの。徐渭の立幅の代表作品の一であろう。

釈文「吳館觀濤百不違。卅年閉戸一全（都）非。念（欲）爲發／難枚乘老。聽說風波柳穀歸。龕楮夾流驚／箭筈。鷗鷺廻艇（舫）晒漁衣。孝娥不減行人淚（恨）。並／作鷗夷怒色飛。二兒觀潮三江夜歸之作。茆素眞喜之索書。天池道人。白文印〔文長氏〕、朱文印〔湘管齋〕」

15) 徐渭画

紙本、一卷。

釈文「荷葉五寸荷花嬌。貼波不碍画船揺。想到薰風四五月。也能遮却美人□。天池道人。」卷頭朱文印〔文長〕〔湘管齋〕、卷末白文印〔青藤道士〕〔天池〕、円形朱文印〔水田池〕、馬積祚跋。画に迫力が無い。

16) 徐渭画

紙本、一卷。

非常に長い横卷。「釣臺 大澤高蹤不可尋。……」卷頭朱文印〔文長〕、白文印〔徐渭〕。あまり迫力が無い。

【9月21日書（木）跡調査】10:00～16:00

前回同様、王氏と一緒に張氏を10時に訪問。10時すぎから12時すぎまではフリーア・ギャラリーで、2時からアーサー M. サックラー・ギャラリーでの調査。今回の目玉は、何と言っても《楚帛書》の実見であった。1)、2)、4)④のみサックラー・ギャラリー所蔵のため、サックラーの倉庫で実見。他はフリーアの倉庫で見たものである。申請書に書いた順に感想を述べておきたい。

1) 楚帛書

1963年サックラー購入。ニューヨークのメトロポリタン美術館保管。

1987年ワシントンへ移管。受領時点ですでに、剥落し変色していたという。

2000年デジタル撮影。そのカラー図像を15枚 printout してもらう。

とにかく最初に眼に飛び込んできたのは、赤茶色の部分と、さらに濃いこげ茶色の様なま

だら模様の色合いである。どうも変色してしまったようだ。二玄社刊「中国法書選」所収の白黒写真と見比べてみると、明らかに、変色、剥落、退色が見て取れる。張氏、王氏、J.Keith Wilson (Associate Director and Curator of Ancient Chinese Art) に、それら変化している箇所を指摘して、意見を述べさせてもらう。このままの保存で大丈夫なのかと心配になった。書法は、拡大鏡で覗くと、本当に細い線なのに「張り」があり、まるで漆で書いたかのように黒々としていて、何度も身震いした。どんな筆と墨で書いたのだろうか。

2) 令方彝

フリーア創立100周年記念展で、ギャラリーに陳列されていた。思っていたより小ぶりで、可愛らしくかつ堂々とした存在感のある青銅器である。

銘文を拓したディスプレイがなく、一通り自分で臨書したものを持って行って比較しようと思ったのだが、残念ながらできなかった。フリーア館内にある図書館へ行って、初期の拓本を探したが見つからなかった。

3) 淳化閣帖 卷1～卷8、卷10の全9巻

第9巻が欠けているが、それは上海図書館の所蔵。「銀錠」と呼ばれる、木版の楔型の跡のようなものが全部で57箇所ある、と巻10の表紙に書いてあった。写経用紙を装丁に使っており、剥がれて文字が見える。現存する最古の淳化閣帖とされており、王献之《鴨頭丸帖》(巻10にあり)を、他本と比較してみたいと思っている。

4) 徐渭

①書《觀潮詩》

②画《十二花卉図巻》末尾自跋「洛陽城中崔戸處士……。」あり。

③画《水墨荷花逸品》

④画《躍鯉図》

マカオ芸術博物館主催『乾坤清氣——故宮上博珍藏青藤白陽書画學術研討会』2006年11月11日・12日に参加し、研究発表「徐渭的書法審美」を行うため、事前学習として見せてもらったものである。次の陳淳も同様である。

5) 陳淳

①書「羣山萬水出臥數……」杜甫詩

『歐米』明清篇収録。朱文印「王季遷海外所見名跡」あり。

陳淳の代表作の一件と言って間違いなかろう。行草の見事な筆使いが余すところなく発揮されている。

②山水図

「嘉靖乙未白陽山人道復倣小米作此図」の落款あり。

6) 黄道周 自詠行草詩卷

1983年フリーア収蔵、王南屏収蔵品。

楷書《孤忠耿墨》、光緒己亥陶濬宣（文沖）題、白文印〔陶文沖五十年以降書〕あり。

冷箋紙、表具悪し。

7) 董其昌 臨閣帖

王文治題《思翁臨右軍三帖》。王南屏収蔵品、《玉潤帖》《丙舍帖》《治頭眩帖》の三帖。

2、プリンス頓大学美術館

卷	Page	書作家	法書名
1	口絵Ⅲ	黄庭堅	贈張大同卷跋尾
1	口絵Ⅴ	米芾	避暑帖
1	1-6	王羲之	行穰帖並題跋
1	59-66	黄庭堅	贈張大同卷跋尾（張大千）口絵Ⅲ
1	74	米芾	留簡帖
1	75	米芾	歲豐帖
1	76	米芾	避暑帖 口絵Ⅴ
1	77-79	伝李公麟	孝経図卷并題跋
1	挿図9	張大千	黄庭堅贈張大同卷跋
1	挿図11	呉咨	伝李公麟孝経図卷題字
2	25	楊皇后	四時節物七絶方冊
2	52-107	張即之	金剛般若波羅蜜経并題跋
2	挿図17	張即之	金剛般若波羅蜜経
3	口絵Ⅰ	趙孟頫	湖州妙嚴寺記
3	口絵Ⅱ	趙孟頫	致中峯和尚札

3	口絵Ⅲ	鮮于枢	御史箴
3	口絵Ⅳ	康里巎巎	柳宗元梓人伝
3	18-26	趙孟頫	湖州妙嚴寺記并題跋 口絵Ⅰ
3	44	趙孟頫	致中峯和尚札 口絵Ⅱ
3	45	趙孟頫	致季博提舉札
3	46	趙孟頫	管道昇致尊親家太夫人札
3	47	趙雍	致彦清都司札
3	48	趙雍	致彦清相司札
3	49	趙由哲	致賢夫官人札
3	52-54	趙雍・虞集等	趙孟頫画謝幼輿丘壑図卷題跋
3	55-60	鮮于枢	御史箴并題跋 口絵Ⅲ
3	72-78	康里巎巎	柳宗元梓人伝并題跋 口絵Ⅳ
3	挿図 23	鮮于枢	御史箴（鈎模本）
4	口絵Ⅲ	姚綬	芭蕉詩卷
4	1-5	柯九思	宮詞卷并題跋
4	40	俞和	臨樂毅論并題跋
4	41	王逢	題趙孟頫画人馬図冊
4	44-55	元明古徳冊	
4	68-74	沈粲・沈度	沈粲草書詩・沈度朱熹感寓詩合卷
4	75-82	姚綬	芭蕉詩卷 口絵Ⅲ
4	83-92	陳猷章	梅花病中作
4	98-102	祝允明	閒居秋日等詩卷
4	挿図 22	俞和	臨樂毅論 文從簡等跋
4	挿図 26	陳猷章	梅花病中作 題跋
4	挿図 27	祝允明	閒居秋日等詩卷 沈鎮跋
4	挿図 30	張即之	金剛經 趙宣光跋

【7月25日（火）書跡調査】10:00～17:00

10時にPrinceton University Art Museum Stuff Entranceから入り、Cary Liu氏（劉怡瑋・香港人・方聞先生の教え子、Curator of Asian Art）に会い、そのまま書庫へ入れて頂く。
Sinéad R. C. Kehoeさん（キョウ・シネード、東北大学に留学したそうで日本語が堪能、日

本絵画史専門、Assistant Curator)、大学院生(北京から来た若い女性で日中英三ヶ国語堪能、日本絵画史専門)の面識を得る。その後、時間を惜しみ、すぐさま以下の書跡14件を17時まで見せて頂く。

なお、プリンストンでの調査は、上記『歐米』ではなく、劉氏から教えて頂いた、方聞(WEN C. Fong)編“*IMAGES OF THE MIND*” Princeton University Art Museum 1984を使用した²。よって以下の、書作家、法書名の表記は“*IMAGES OF THE MIND*”に従う。

1) Huang T'ing-chien (1045-1105) 黄庭堅 — Scroll of Chang Ta-t'ung (Tseng Chang Ta-t'ung ku-wen t'i-chi) 贈張大同古文題字

各紙を継いだところに「宣府書印」と「大風堂」などの印が上下に押してある。下の印は継ぎ目によって違う。継ぎ目に近づくと墨の色が薄くなっている。

上下少なくとも2センチ以上は本紙があったと思われる。前半の数紙のほうが詰まったり広がったりで、変化が多く見えるが、後半の三葉の方が落ち着いて見える。

王鐸の小楷は珍しい。「大千眼底」の印がある。

呉寛の朱文印「呉原博印」は果たして明代の印か。赤みの色合いが強い。

張大千の長文の跋文には、お金のことが書いてあって、「不雅」である。

大千の釈文は、傅申氏の博士論文を読むと出て来るそう。

2) Mi Fu (1052-1107) 米芾 — Three Letters (San cha) 歳豊帖 / 避暑帖 / 留簡帖

《歳豊帖》は行書。日本の《行書三帖》に似ている

《避暑帖》は行書。下部に傷みがある。赤茶けて見える。

《留簡帖》は草書。「今」の字の書き方が気になる。「月」を書いてから書き直したように見える。絹に書いたようなカスレが所々にある。

3) Chao Meng-fu (1254-1322) 趙孟頫 — The Mind Landscape of Hsieh Yu-yü 謝幼輿丘壑図卷

C.C.Wang (王季遷) 所蔵作品。王氏の印が8つある。

趙孟頫の印があるが判読できない。前後にまだ絵があるようにも思える。

董其昌の跋文は、あまり冴えている様には見えない。

4) Chao Meng-fu (1254-1322) 趙孟頫——Record of the Miao-yen Monastery (Hu-chou Miao-yen-ssu chi) 湖州妙嚴寺記并題跋

東京国立博物館所蔵の《玄妙觀重修三墳記》と、小篆の題字から本文の楷書まで、よく似た作品である。印刷で見ると違い、字に迫力があり、楷書の名品の一つに数えてよいと思う。篆書の縦角がやや左に倒れている。《九成宮醴泉銘》に似た字「闕」、李邕に似た字がある。彼の行書のルーツは、李邕あたりではないかと思われる書跡である。

5) Ni Tsan (1301-1374) 倪瓚——Twin Trees by the South Bank (An nan shuan shu) 岸南双樹

倪雲林の書は細身で右上がり強く、バネがある。

字の中心が左へ左へとずれていくのが特徴。

6) Sung K'o (1327-1387) 宋克——T'ao Ch'ien's Poems, and Bamboo and Rocks (Shu T'ao-shih chi chu shih hsiao-ching) 陶淵明詩与竹石

本書跡はある意味で特殊である。鍾繇風の楷から始まり、さらに細楷が続き、そして章草が登場する。宋克といえば章草であるが、いくつかの書体を同時に作品に書いている貴重な例であろう。ただし、もう一点そっくりの作があるそうで、そうするとややこしい。いずれかが本物、または両方とも偽物の可能性がある。

7) Ch'en Hsien-chang (1428-1500) 陳献章——Poems on Plum Blossoms (Mei-hua ping-chung tso) 梅花病中作

現代的書作に見える自由自在の書である。大小、潤渴の変化が見事である。これで病気の作というのだから、元気であればどういう字になるのだろうか。

8) T'ang Yin (1470-1524) 唐寅——Odes to Fallen Flowers (Lo-hua shih) 落花詩

趙孟頫と似た味わいがある、ただ趙より、細太の変化に富む。

9) Wang Shou-jen (Wang Yang-ming; 1472-1529) 王守敬 (王陽明) ——Letters to His Nephew Cheng Pang-jui (Chih chih Cheng Pang-jui san cha)

美しい字で、三通の手紙である。第一通が特に美しい。二王の字を学んだことがよく分かる。文徵明の字にも似ている。

10) Tung Ch'i-ch'ang (1555-1636) 董其昌——Calligraphy in the Styles of the Four Sung Masters (Fang Su Huang Mi Tsai hsing-shu) 倣蘇黃米蔡行書

四人の合評を始めたのはいつか。董其昌あたりが最初ではないか。

以上が“IMAGES OF THE MIND” 1984に掲載されるものである。

この10件に加え、次の4件も見せて戴いた。

11) 張即之 金剛般若波羅密多經

『歐米』収載。王福庵の題籤あり。3帙。木箱入り。圧巻である。張の代表作の一。

12) 趙孟頫 洛神賦

『歐米』未収載。良い字である。書の普及化、大衆化には向いている書であろう。境地が高いものとは言いつらいが、結構、筆法とも超一流である。

13) 黄道周 擬古詩卷

弘光元年(1645)、紙本、34.6×324.5cm。『歐米』明清篇第二巻収載。

日本でも図版が発表されたことがあるという。《海外遺珍》収載というのが未確認。

14) 王羲之 行穰帖

『歐米』収載。残念ながら館内で特別陳列中のため、ガラス越しでしか見られなかった。

2003年4月に大阪市立美術館で開催された、読売書法展20周年記念事業「海を渡った中国の書エリオット・コレクションと宋元の名蹟」で、すでに過眼し、鑑賞したものが多かったが、ガラス越しではなく、直に見るのは全くの眼福である。それもたった一人のために、丸一日掛けて、14件もゆっくりと見せて戴いた。本当にプリンス頓にきた甲斐があったと感謝している。Cary Liu氏は、上記展覧会の講演会で来日され、パネリストとして発表されたので、ご存知の方も居ると思う。

3、メトロポリタン美術館

巻	Page	書作家	法書名
2	8-14	伝宋高宗	題馬和之画毛詩図巻(国風幽風)

2	15-16	伝宋高宗	題宋人画文姫帰漢図巻
2	36-37	王介・鮮于枢等	米友仁画雲山図巻題跋
2	112-115	周密・仇遠等	趙孟堅画山水水仙図巻并題跋
2	挿図 15	米友仁	雲山図巻
2	挿図 19	褚德彝	趙孟堅画山水水仙図巻跋
3	11-13	錢選	王羲之觀鵞図巻自題
3	39-40	趙孟頫等	伝趙令穰画江村秋暁図巻題跋
3	61-62	鮮于枢	婦去来辞
3	挿図 13	伝趙令穰	画江村秋暁図巻 題字
3	挿図 14	伝趙令穰	画江村秋暁図巻
3	挿図 15	伝趙令穰	画江村秋暁図巻 李恩慶題跋
3	挿図 17	錢選	画婦去来辞図巻
4	32-33	倪瓚	虞山林壑図自題

【7月26日（木）書跡調査】13:30～16:00

Yeh-Lewis, Hwai-ling 女士 (Collections Management Coordinator Department of Asian Art・台湾宜蘭人) にお世話になり、メトロポリタン美術館の書庫に通してもらい、特別鑑賞させて頂く。Boston から到着した高翔君、New York に留学中の若原彩子さんも一緒に鑑賞した。鑑賞後、Maxwell K. Hearn (Douglas Dillon Curator for Chinese Painting and Calligraphy) の面識を得ることができた。

鑑賞した作品は、事前に提出したリスト通りで、以下の10件。

なお、メトロポリタンでの調査は、上記『歐米』ではなく、方聞 (WEN C. Fong) 編 “*Beyond Representation*” YALE UNIVERSITY PRESS, NEW HAVEN AND LONDON 1992 を使用した³。以下の書作家、法書名、page 数の表記は、“*Beyond Representation*” に従う。

1) 東晋 王羲之 楽毅論 pp.127/ 2) 東晋 王羲之 蘭亭序 pp.128

①《黄庭経》、②《孝女曹娥碑》、③《蘭亭序》、④《楽毅論》明拓、⑤《楽毅論》、⑥《洛神賦》、⑦《虞世南破邪論》、⑧《小字陰符経》の8件の書跡からなる一冊。《楽毅論》が2種類ある。付されている題籤、跋文を記録しておく。

外題籤「唐刻宋拓晋唐小楷八種」

内題字「晋唐小楷 光緒壬辰夏五 陶澐宣題 方形白文印〔陶氏文冲〕」

内題籤「唐刻宋拓晉唐小楷八種」 方形朱文印〔翁萬戈藏〕

内題籤「晉唐名蹟八種 道光癸未平叔以此北宋拓本面贈辭不受。戊子嘉平復寄至瀋、因識。」

方形朱文印〔天籟閣〕 瓢筆形朱文印〔得密〕 長方形朱文印〔樵李項氏之家定玩〕

跋文「右宋搨晉唐小楷法書數種、筆意精嚴、動合法度、誠寶玩也。後學柯九思拜手謹題。」

跋文「晉唐小楷至于今、難得佳本、況唐刻宋搨乎。吾生六十有七年、所見晉唐楷帖多矣。如此者曾無第二小楷中至寶也。千金可捨此不可失。甲寅正月二十有二日、恭壽老人、王澐書于二泉寓樓。長方形白文印〔王蕪林〕 方形朱文印〔虛舟〕」

跋文「晉唐小楷至刻、今千臨百摸、無法本來面目、此書僅隔一帙、信可寶貴。琅邪王澐又書。方形朱文印〔澐〕 方形朱文印〔虛舟〕」「乙卯七月二十有八日、左盲老史、拭目冰觀。」

跋文「晉唐小楷、余得鐵梅翁藏本、又得江西蕭氏本、皆海外烜赫之跡。此本得最後、價亦最高。然較前兩本則未逮也。……光緒三月三日松禪同蘇記。」好太王碑朱鈎模箋

跋文「道光戊子、嘉平金匱、孫文靖以此冊、寄至瀋陽。余携之行幸。……戊戌二月三日並寫小像於右、□叟」

3) 東晉 王羲之 十七帖 pp.150

朱筆で所々、草書の字形の右横に釈文を付してある。

外題籤「宋榻十七帖 味經題籤」

「勅」字下の記「付直弘文館／臣解無畏勅／充館本／臣褚遂良校／無失／僧□」が一行ずつ切り離されて貼り込まれていた。

跋文「此闕十六行之本与《餘清》・《鬱岡》二刻詳校悉同。嘉慶癸酉秋八月廿日、方綱。方形朱文印〔覃谿〕 方形白文印〔鐵卿鑒定〕

方形白文印〔鐵保私印〕 方形朱文印〔翁萬戈藏〕

跋文「黃長睿十七帖跋云、今世所傳先唐石刻有二。一勅字本、有褚遂良解如意校定者。一即此本也。……光緒庚子七月朔、翁同龢記 方形朱文印〔叔平〕」

4) 唐人 小楷靈飛經

館側の手違いで、臨本を見る。原本を探していただいたが、時間に間に合わず。

以上1)～4)の4点は、旧翁萬戈コレクション。

5) 北宋 黄庭堅 廉頗藺相如伝 pp.146

卷子本。山谷の草書の絶品。「廉頗者趙之良將也」で始まる。

中ほどの「趙」字が4回連続して登場するあたりの渴筆に酔いしれ、長らく見つめてしまった。

6) 北宋 米芾 吳江舟中詩卷 pp.156

「昨風起」で始まり、「吳江舟中作米元章」の落款で終わる名品である。

詩は一行に三字ずつ書かれているが、「戰」字だけ一字で書かれ、目に焼きつく。

引首に王鐸の賛がある。

「米顛書、本義獻、縦横飄忽、飛仙哉。深得蘭亭瀟不規、不規模擬。予為焚香、寢臥其下、公望郭四兄善藏、勿輕示不好書。在皇帝崇禎十六年八月初四日、題於林秀亭中、同坦公都諫山園公度洙源漱下觀。王鐸題書。」

7) 北宋 李公麟 孝經図卷

帛のような薄い絹に書かれたのであろう。剥落があちこちにあり、画も書も見づらい
李公麟の真跡かどうかは疑問。

題籤「宋李伯時畫孝經圖并李寫孝經真跡 寄舫鑒藏 吳咨題」

題籤「宋李伯時畫孝經圖並書經文 孝經堂汪令聞敬藏 真州金時儀書籤」

8) 元 趙孟堅 梅竹詩図卷 pp.304

卷子本。「里中康節菴畫墨梅求詩、因述本末以示之、子固。」で始まる。

ややウネウネした感じの行書である。

9) 元 耶律楚材 詩卷 pp.414

卷子本。「雲宜黎庶半逋逃、獨爾千民按堵牢。」で始まる。⁴

一行に三、四字の大字行書で、迫力がある。

外題籤「耶律文正王墨跡」

内題籤「文正王耶律楚材墨跡」

10) 元 鮮于樞 石鼓歌 pp.418

卷子本。見事な単体の草書である。書譜に比べやや堅い感じがするが、大らかさがある。

卷末小楷「明墨林山人項元汴觀于崇古齋中」

跋文「臨川聶大年、評困學老人書云、法盛於晉、至唐顏柳出、法度漸廢。又至宋蘇米出、晉魏之風軌掃地矣。鮮于伯幾與趙文敏同學書、而草有過文敏處。……江邨高士奇。」

跋文「鮮于困學歿於大德壬寅、此卷為辛丑所書、時年四十五、蓋晚歲用意之作。余平生所見、當以此為困學草書第一。……二十七年五月十五日尹默。」尹默は沈尹默である。

4、ボストン美術館

卷	Page	書作家	法書名
1	口絵 VI	宋徽宗	五色鸚鵡図巻自題
1	42-43	沈礼	須真天子経巻
1	87	宋徽宗	五色鸚鵡図巻自題 口絵 VI
1	挿図 12	宋徽宗	五色鸚鵡図巻自題
2	口絵 I	伝宋高宗	題馬和之図毛詩図巻（小雅・南有嘉魚之什）
2	1-7	伝宋高宗	題馬和之図毛詩図巻（小雅・南有嘉魚之什）口絵 I
2	20	伝宋寧宗	平生睡足七言聯句紈扇
2	22	宋理宗	恋親時見七絶行書紈扇
2	40-43	范成大・陸游等	伝閻立本画北齊校書図巻并題跋
2	120-122	陳容	九龍図巻并自題
2	挿図 18	謝諤	伝閻立本画北齊校書図巻跋
3	50-51	趙雍	杭州天目高峯禪師原妙像伝賛
3	71	班惟志	草書七言絶句

【8月16日（水）書跡調査】15：00～17：00

盛昊氏(Hao Sheng、Assistant Curator for Chinese Art Department of Art of Asia, Oceania and Africa)に先ず会い、ジョウ・アール氏(Joe Earle、アジア・オセアニア・アフリカ美術部、正力松記念部長)を紹介してもらい、ご挨拶を申し上げる。

ボストン美術館のHPにCollectionsがあり、その中のAdvanced Search⁵をクリックすると、図版ならびに解説があり、検索には非常に便利である。このHPを参照して事前に申請した書跡は以下の17件であったが、4)、8)、9)の3件は制限されて鑑賞できなかった。

また時間の関係で、14)、15)―2)、15)―3)も見ることが出来なかった。よって実際に過眼したのは11件である。なお1)、2)、3)、4)、5)、6)、8)、9)、10)、12)は『歐米』

に収める書跡である。

1) Emperor Xiaozong (伝宋孝宗) Round fan

蘇軾七言詩聯句「平生睡足連江雨 盡日舟行擘岸風」紈扇、絹本、23.9×25.1cm。

『歐米』第2巻20頁に掲載され、それには「伝宋寧宗」の書と記す。

1912年5月に岡倉天心が購入したもの。

本来、書と画の組み合わせ、一対のもの。よってこれに対する画がある。

カビが紙面全体にあり、水に濡れたことがあるとのこと。

墨色がとても美しく、蘇軾の書跡のような感じさえする。

方形白文印〔黔寧王子子孫孫永保之〕右側中央。

瓢箪形朱文印〔御書〕左側中央やや下。

方形白文印〔樸孫心賞〕左側下。

本紙左側に、別紙に以下のような阮元の款記と朱文印〔阮元〕がある。

「此御書乃宋高宗筆。詩則蘇文忠公舊句也。『漁隱叢話』載文忠此詩、作〈平生睡足連江雨 盡日舟橫拍岸風〉。今蘇詩刻本亦作〈舟橫擘岸風〉。今此幅具為〈行舟〉設景。自是、南宋初本作〈行□擘岸〉也。」この款記にもカビが生えている。

2) Emperor Lizong (宋理宗) Round fan

皇甫冉七絶「恋親時見在人羣、多在東山就白雲。獨坐焚香誦經處、深山古寺雪紛々。」

行書紈扇、絹本、24×25.6cm。

7)と同筆と思われる。1)と同じくカビが紙面全体にある。

これも1912年5月に岡倉天心が購入したもの。

円形朱文印〔≡〕右側中央。≡は、『易』乾卦で「天」を意味する。

方形朱文印〔御書〕左側中央。

方形白文印〔樸孫心賞〕左側下。

3) Calligraphy of a Quatrain in Cursive Script (班惟志)

草書七絶詩斗方、26.3×24.3cm。

「長江浩々不可極、中有漁舟盡日閑。日暮得魚沽酒去、不知風雪滿千山。恕齋書。」

これも1912年5月に岡倉天心が購入したもの。

朱文方形印が右下にあるが判別できない。

2) と同印、円形朱文印〔≡〕右側中央。

2) と同印、方形朱文印〔御書〕左側中央。

本紙左側に、別紙に以下のような「芝志」の款記と方形白文印〔入境廬〕がある。

「漁洋山人、曾在宛平王相國處、見此幅。目為明宣宗筆書。余不謂、然此畫題字、乃宋高宗書。詳後題江貫送畫後。芝志。」

漁洋山人は清初の詩人、王士禛であるので、調べてみたい。

8) Northern Qi Scholars Collating Classic Texts

伝閻立本画北齊校書図卷并題跋 范成大・陸游・謝諤跋等
鑑賞できず。

9) Emperor Huizong (宋徽宗) 五色鸚鵡図卷自題

鑑賞できず。

10) Illustrations to Six Texts from the Xiaoya Section of the Book of Songs

伝宋高宗 題馬和之図毛詩図卷 詩經小雅・南有嘉魚之什

絹本、27×383.8cm。北宋の金粟山藏經紙を使用していると思われる。

巻頭に乾隆皇帝題籤《龍光寫盛》および跋文あり。

円形朱文印〔石渠定鑑〕、方形白文印〔寶笈重編〕あり。

小楷の書風は端正で優しく、伸びやかであり、虞世南風の味わいがある。

絵巻物のため、書と画が交互に現れる卷子本である。

巻末に文徵明の墨色の薄い跋文がある。

「余平生所閱馬和之畫、經無下暇數十卷。若作家士氣兼備、此亦幅盡矣。嘉靖丁未九月六日、汝由奉使北還道、出吳門持此相視、漫為鑒定。徵明。白方形文印〔文徵明印〕」

11) Wen Zhengming (文震孟) Folding fan mounted as album leaf

紙本、扇面、16.5×51.7cm。

文震孟(157—1636)は、字は文起、號は湛持、明の江蘇長洲の人で、文徵明の曾孫、文三橋の孫にあたる。しかし彼の書は文徵明ほど華やかさが見られない。それは彼が大学者であり、かつ政治運動を行ったことと、明末という時代性が起因しているかもしれない。

14) Yang Shoujing (楊守敬)

鑑賞できず。

15) — 1 Wu Changshuo (呉昌碩) 《美意延年》 隸書匾額

ボストン美術館の Chinese Art Department of Art of Asia の事務室内に飾られている。

為書に「煦亭先生新居落成、書此頌之、即蘄正隸。癸卯春仲、呉俊卿。」とある。

右下の白文方形印は判別できず。方形白文印〔安吉呉俊章〕落款下。

『歐米』明清篇第二巻収載。

15) — 2 Wu Changshuo (呉昌碩)/15) — 3 Wu Changshuo (呉昌碩)

鑑賞できず。

5、その他

『歐米』に収載される書跡の名品は、上記の四美術館に加えて、クリーブランド美術館⁶ フォッグ美術館 (ハーバード大学美術館)⁷、シンシナティ美術館、ネルソンギャラリー⁸があるが、本稿執筆段階ではまだ訪問していない。今後の研究のために、以下リストのみを挙げておきたい。

①クリーブランド美術館

巻	Page	書作家	法書名
2	30-31	宋理宗	題馬麟王維詩意紈扇
2	34-35	米友仁	雲山図巻自題
2	38-39	張澈	伝周文矩宮中図巻題跋
2	126-129	王文蔚・李恵等	宋人画溪山無尽図巻題跋
2	挿図 22	宋人	画溪山無尽図巻題跋
4	18-21	褚奐	題張渥画九歌図巻
4	22-24	呉鎮	草亭詩意図巻自題
4	34-35	倪瓚	筠石喬柯図自題
4	36-39	趙孟頫・郭畀等	伝趙光輔画蕃王礼仏図
4	挿図 18	張渥	画九歌図巻 呉湖帆等跋
4	挿図 20	李東陽	呉鎮画草亭詩意図巻題字

②フォッグ美術館

- 1 86 伝宋徽宗 噴香舞雪七言聯句紈扇

③シンシナティ美術館

- 4 12-17 楊維禎・陸居仁等 馬遠画商山四皓図巻題跋

④ネルソンギャラリー

- 3 35-38 趙孟頫・元明善 李衍画墨竹図巻題跋
4 挿図 31 李衍 画墨竹図巻 元明善款記

結び

今回の調査で、フリーア・ギャラリー&アーサー M. サックラー・ギャラリーにおいて2回にわたり24件、プリンストン大学美術館において14件、メトロポリタン美術館において10件、ボストン美術館において11件、合計59件の書跡を過眼させて頂いた。ワシントンDCの張氏宅にて、彼の友人所蔵の査士標10幅の大作等、個人蔵の書跡も散見しているので、アメリカに8ヶ月余り滞在して、少なくとも60点以上の書跡を鑑賞したことになる。

予想以上に順調に調査させて頂いたことに、関係機関および関係者各位に、篤く感謝申し上げます。当然と言えばそれまでであるが、四美術館のCuratorはみな華人（中国、台湾、香港出身）であり、中国人の研究パワーを痛感した。

アメリカでは現在、Art History（美術史）の研究機関が大学等にあるが、Orient（東洋）という言葉を用いず、East Asia（東アジア）という地域観で研究が進められている。Chinaのみならず、Korea、Japan、Taiwan、Vietnamまで視野に入っている。

その上、CalligraphyよりもPainting研究の方が主流であり、Calligraphyの専門家は数えるぐらいしかおらず、それもJapaneseよりChinese Calligraphyが殆どのである。

翻って言えば、アメリカの大学等の研究機関に、Japanese Paintingの専門家は居ても、Calligraphyの専門家が殆どおらず、またJapanese Art Historyを講義する先生の多くは日本人ではなく、華人がカバーしている大学が多いということである。

筆者は中国書跡の研究目的で渡米し、華人のネットワークを活用させて頂いたためか、日本書跡の研究者、および日本人の美術史研究者に殆ど出会えなかった。この点が残念でならない。以上の現状を記して結びとしたい。

[注]

¹ 2006年11月8日から12日まで、ボストンから香港を経由してマカオへ飛び、マカオ芸術博物館主催『乾坤清氣——故宮上博珍藏青藤白陽書画學術研討会』に参加し、研究発表「徐渭的書法審美」(中国語)を行った。よってこの間のみアメリカを離れた。

² “IMAGES OF THE MIND”の詳細は下記の通り。

Selections from the Edward L. Elliot Family and John B. Elliott Collections of Chinese Calligraphy and Painting at The Art Museum, Princeton University

WEN C. Fong And Alfreda Murck, Shou-chien Shih, Pao-chen Ch'en, and Jan Stuart

THE ART MUSEUM, PRINCETON UNIVERSITY 1984

Published by The Art Museum, Princeton University, Princeton, New Jersey 08544

ISBN 0-943012-04-X

Contents

Foreword ALLEN ROSENBAUM

Preface JOHN B. ELLIOTT

Acknowledgments WEN C. FONG

Chronology

I. IMAGES OF THE MIND WEN C. FONG

Introduction: The Great Tradition

1. Pictorial Representation in Chinese Landscape Painting

2. Northern Sung Calligraphy: The Picture of the Mind

3. The Yüan Dynasty: The Rise of Self-Expression

4. Ming Dynasty Revivalism

5. The Great Synthesis

II. EIGHT VIEWS OF THE HSIAO AND HSIANG RIVERS

BY WANG HUNG ALFREDA MURCK

III. THE MIND LANDSCAPE OF HSIEH YU-YÜ

BY CHAO MENG-FU SHOU-CHIEN SHIH

IV. CATALOGUE Pao-chen Ch'en, and Jan Stuart

Selected Bibliography

Index of Chinese Names

³ “*Beyond Representation*” CHINESE PAINTING AND CALLIGRAPHY 8TH-14TH CENTURY

⁵ http://www.mfa.org/collections/search_art.asp

⁶ 現在閉館中で訪問できなかった。

⁷ 2006年12月4日(月) 11:00～12:00、ハーバード大学美術館にて、伝宋徽宗「噴香舞雪七言聯句執扇」を実見。ハーバード大学の Yukio Lippit 氏 (ユキオ・リビット、美術史学部助教授)、Anne Rose Kitagawa さん (北川アン・ローズ、同館日本美術学芸員) にお世話になった。なおハーバード大学美術館とは、フォッグ美術館、アーサー M. サックラー美術館、ブッシュ・ライジンガー美術館の総称で、東洋の書画は現在、全てアーサー M. サックラー美術館に移管されており、フォッグ美術館には無い。

書跡は行書「噴香瑞獸金三尺、舞雪佳人玉一□。宣和殿。」

絹本で、剥落があるが、金線描画の下絵が施されている。下絵のある例は珍しいのではないか。

『猷米』に傅申氏が徽宗にちがいないが待考を要す、と述べている。印が8顆あるが、判読不能。

書は非常に細い線質で、「舞」、「佳」などの横画の右肩上がりが強く切れ味がある。1971年購入品。

もとは「月夜賞梅図(筆者仮称)」と表裏をなしていたと思われるが未詳。画風から見ると元代は下らないであろう。なおアーサー M. サックラー美術館所蔵の書跡は30件あるそうだが、古代の書跡は僅かにこれ1件のみ。あわせて同館所蔵の中国絵画作品3件(うち1件は雪湖画)も鑑賞させて頂いた。

⁸ 2006年12月12日(火) 10時調査予定。